OSV INFORMATION

PROJECT

沖縄コーヒープロジェクト
Coffee farm OKINAWA Sport Verein

沖縄SVはクラブの社会貢献事業としてSDGsに積極的に取り組んでいます。その一環として2019年4月には、ネスレ日本株式会社と共に、沖縄で初となる大規模な国産コーヒーの栽培を目指す「沖縄コーヒープロジェクト」を始めました。
また、このプロジェクトには、コーヒー農場の場所を提供してくれた名護市、コーヒー栽培では琉球大学が参画。沖縄の新たな可能性を、沖縄SVが旗手となり、大手メーカー、地域、教育機関と連携。沖縄の新たな地域資源をサスティナブルな価値をベースに創造していきます。



■ 沖縄コーヒープロジェクトの目標

- 農業就業者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地への対応など沖縄県の一次産業における課題の解決。
- 沖縄を拠点とする国産コーヒー豆の栽培を本格的に開始することで沖縄県の一次産業を活性化させる。
- 沖縄県産のコーヒー豆やコーヒー製品を新たな特産品とする。
- 環境に配慮した沖縄の新たな観光資源としてサッカー場を併設したコーヒー農園を将来的に開発する。

PARTNER



支援の力がJリーグを引き寄せる。
スポンサー（パートナー）募集中!

沖縄SVと共に、沖縄の未来をスポーティでアクティブな地域にしていきませんか。沖縄SVの活動は、Jリーグ昇格を目指す一方、地域の清掃活動、離島も含めた子どもたちへのスポーツ教室、企業や教育機関と協働した地域資源の商品開発など、多岐にわたります。しかし、私たちの力だけでは、瞬発力はあっても持久力がありません。フットボールを通じて、沖縄をより豊かに、もっと魅力的にしていきたい。沖縄SVでは、私たちの目標、そして活動にご支援いただけるスポンサー（パートナー）を募集しています。



■ ゴールドパートナー内容

会員期間　加入日から1年間有効
会 員 費　¥110,000（税込）/年
特　　典　① 懇親会2名様ご招待（年末沖縄開催予定）
② OSVオーナーシャツ2枚（非売品）進呈
③ 公式ホームページ 社名掲載

ACADEMY & SCHOOL

子どもたちに、夢と希望を。
沖縄SVサッカースクール　スクール生募集!

沖縄SVサッカースクールでは初心者から経験者まで（4才～12才）の元気な子どもたちを対象としています。幅広い年齢の子どもたちが集いますが、レベルに合わせた指導をプロフェッショナルなコーチが行います。沖縄SVに関わる全ての人にサッカーを好きになってもらい、またサッカーが上手くなりたいという子どもたちのために活動しています。

■ スタンダードコース

初めてサッカーをする初心者の子から、チームでの活動では物足りないという子たちが多く通っています。①ボールに触れること、②ボールを扱うこと、③技術を習得すること、④ゴールを目指すことを身につけることができます。

■ エキスパートコース

個人の技術・戦術の向上を目的に、より専門的なトレーニングを行います。同時に、身体の動かし方も体得することを目的にしています。沖縄SVでは育成年代からトップチームまで一貫した指導を行うことで、数年後にはトップチームで活躍し、世界で通用する選手の育成を行なっています。

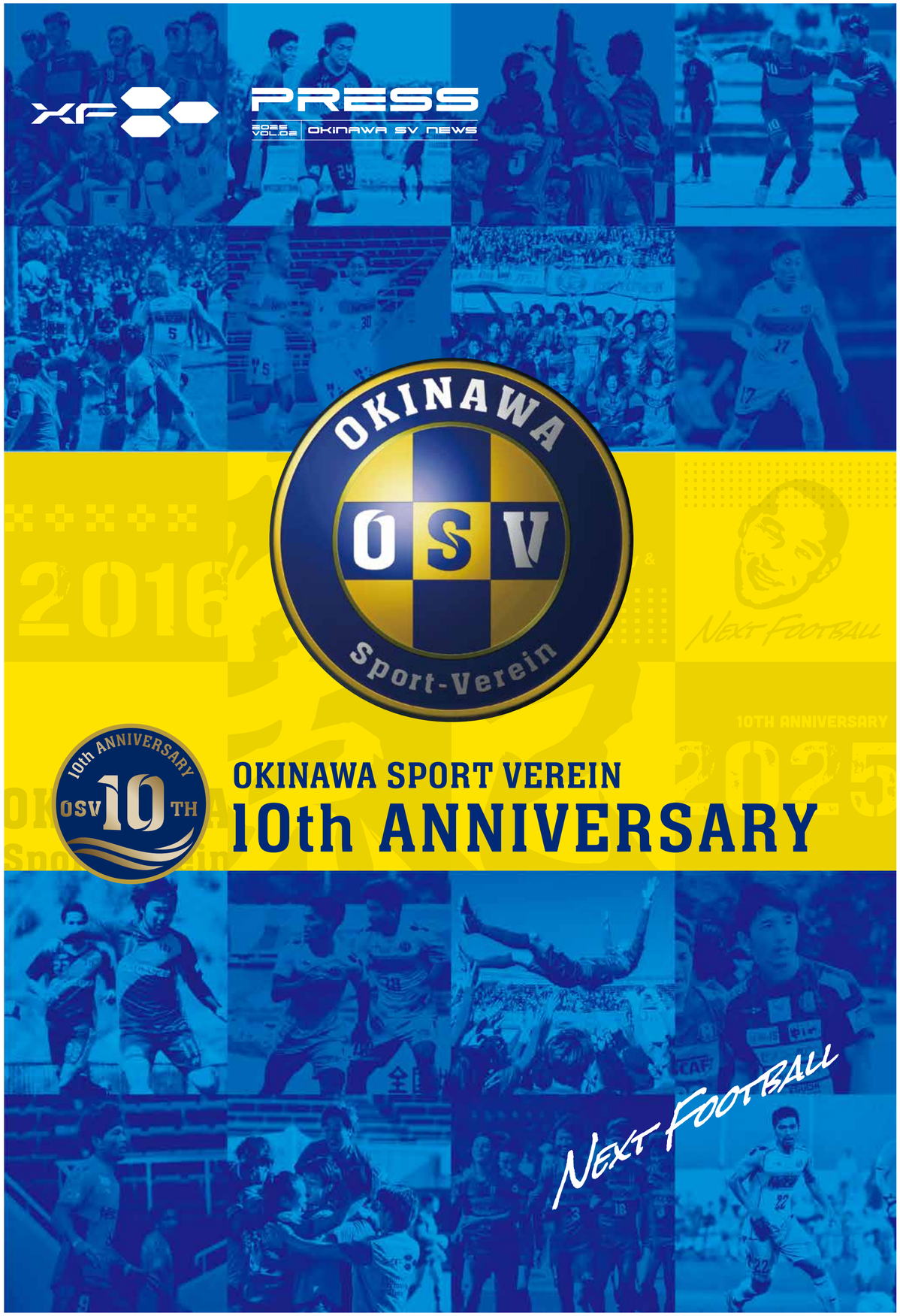


沖縄SVサッカースクールへの申込み（体験含む）

●こちらのページの下部リンクから「専用フォーム」をご記入のうえ、送信してください。
https://www.okinawasv.com/academy/
【お問合せ（担当：高柳）】TEL：098-973-2771 FAX：098-923-2732

BRAND SITE　ONLINE STORE　TEAM ORDER

【発行・編集】
株式会社アイズ・カンパニー
本社　〒894-0027 鹿児島県奄美市名瀬末広町18-13 メイスビル奄美大島 101号室
千葉オフィス　〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 4-11-11小倉第一ビル 3F
埼玉オフィス　〒360-0036 埼玉県熊谷市桜木町 1-92-1
MAIL：info@thexf.net / TEL：050-5835-2352 / FAX：048-598-5074





10th Special interview

沖縄SV 代表 高原直泰

「何もない」から始まった沖縄SV。10年を迎えた今、ここからが本当のスタート。

OKINAWA Sport-Verein

Jリーグ、海外での経験を経て、2015年に沖縄SVを設立した高原直泰氏。
選手兼監督として、代表取締役CEOとして、それぞれの役割を一身に背負い、
何も知らない沖縄の地、そして文化の中でサッカーを通じた地域活性化に尽力してきた。
そして今、JFL昇格を果たし、沖縄コーヒープロジェクトを推進するなど、
多岐にわたる活動を展開する高原氏に、これまでの道のり、サッカークラブとしての成長と変化、
沖縄でサッカーをする意義、そして未来への展望を聞いた。

サッカークラブとしての成長と変化。

インタビュアー：高原さんが沖縄に降り立った2015年、Jリーグ昇格という目標に加え、「スポーツを通じた沖縄の第三の産業創出」というビジョンを掲げられたそうですが、立ち上げ当初はどのような状況でしたか。

高原：まったくの「ゼロスタート」でしたね。沖縄でもやれる理由のひとつだったこれといった支援があったわけでもなく、資金も人材もない。まさに裸一貫での挑戦となりました。

インタビュアー：そのような状況で、どのようにクラブを立ち上げられたのですか？選手を集めることも大変だったのではないでしょうか。

高原：状況がどうであれ、「やる」と決めたからには、絶対にやり遂げるという強い意志で突き進みました。選手集めはセレクションや、私自身が直接声をかけることから始めました。元Jリーグの選手を軸に、関東と沖縄でセレクションを行い、賛同してくれる選手を集めてなんとかスタートを切ったんです。

インタビュアー：当初から最速でのJリーグ入りを目標に掲げていたとのことですが、その道のりは簡単ではなかったと。

高原：さっきも言ったのですが、実際に始めてみると人材確保の難しさを実感しました。そんな中、10年かかってしまったというよりも、何もないところから活動を始め、応援してくれる方々、企業、行政とのつながりを少しずつ築き、7年でJFLまでたどり着くことができたのは、多くの方々の支援があったわけで有難く思っています。

インタビュアー：この10年間で、沖縄SVはサッカークラブとしても大きな変化と成長を遂げてきたと思います。まずは、高原さんが選手兼監督としてトップチームを牽引されてきた時期についてお聞かせください。

高原：選手兼監督としてトップチームを牽引していた黎明期からJFL昇格1年目にかけては、「上を目指していかないと、チームとしての発信力やブランド力、影響力が出ない」という思いで、Jリーグ入りを目標の一つとして掲げていました。なので、いろいろとサッカーに関連することはしつつも、やはり「まずはJFLに何が何でも昇格するんだ」という強い気持ちでしたし、選手やスタッフも同じ思いでいてくれました。2022年の全国地域サッカーチャンピオンズリーグを勝ち抜いて、当面の目標だったJFLに昇格したときはこみ上げるものがありました。同時に、JFLに昇格はしたが、組織としての力がもっともっと必要だと感じました。より一段上の舞台を目指すためには、組織や現場のチーム力をさらに上げていきたいと思いましたし、そのためにはクラブ全体を見ていろいろと判断や決断をする必要がある。そういうステージまで上がってきたわけです。なので、これまで自分が担っていた役割をいったん整理して、選手を引退し、監督もしっかりおいて、クラブ全体を統括する業務に専念しようと。

インタビュアー：監督を交代されてから、チームの雰囲気や方向性は変わりましたか？

高原：サッカーチームとして大きな転換点になりました。私は「クラブとしてこういうサッカーをやっていきたい」というイメージを明確にし、監督と擦り合わせることで、チームの方向性が定まってきたんです。その結果、２年目はJFLで9位という成績を残し、今年はさらに良いスタートを切れています。

インタビュアー：JFLに昇格したことで、それ以前とで何か大きな違いはありましたか。

高原：創設のときから毎シーズン、上を目指していきたいという選手が集まっていたんですが、より多くの選手が集まるようになりましたしチーム力も確実に向上しています。自分もクラブの代表としてより多様な方々と会うことができるようになったので、クラブの理念やチームの目指すサッカーを発信できるようになり、結果として選手の獲得にも好影響を与えているんじゃないかなと思っています。



インタビュアー：それでは、クラブ全体の経営面では、どのような課題を感じていますか？

高原：Jリーグのクラブと比較すると、スタッフの数がまだ少なく、集客やプロモーションに割ける人材や時間が不足しているのが現状ですが、これからは今まで以上に、ファンの方々が楽しめるイベントなどを通じて沖縄SVを知ってもらう努力を続けていく必要があると考えています。

サッカーを通じた地域貢献。

インタビュアー：クラブづくりとして掲げているもうひとつの信念が「地域貢献」です。高原さんの思いが、地域に根差す沖縄SVを築き上げてきたと思うのですがいかがでしょうか。

高原：私が沖縄に来たときにクラブの原点に据えたのは、あくまで「スポーツを通じた地域貢献、地域活性」ということです。スポーツが地域にどう関わっていけるのか、何をすれば地域活性に繋がるのか、という視点から活動を続けてきました。その信念はこれからも揺るがないですし、そこがブレないことが最も重要だと考えています。

インタビュアー：沖縄SVの地域貢献活動の象徴とも言えるのが、「沖縄コーヒープロジェクト」ですね。サッカークラブが農業に取り組むというのは非常にユニークな組み合わせですが、このプロジェクトはどのように始まったのですか。

高原：「沖縄コーヒープロジェクト」は、私たちの地域貢献活動の大切な取り組みの一つです。サッカークラブが農業に取り組むという異色の組み合わせを、多くのメディアで取り上げていただき、その認知度を一気に広げることができました。沖縄には「沖縄でだからこそつくれるもの」という視点を常に持っていたので、コーヒーが作れると知った時には、これでチャレンジしてみようと思ったんです。

インタビュアー：コーヒープロジェクトは、クラブにとってどのような意味を持つのでしょうか。

高原：サッカーでの成果がコーヒープロジェクトへの注目度を高めて、コーヒープロジェクトの成功がまたサッカークラブの発展にも繋がるという、まさに「相乗効果」を狙っているんです。特に、コーヒーの収穫が本格化し、商品として世に出せるようになれば、沖縄の人々や行政の受けとめ方も大きく変わると期待しています。将来的には観光農園として、コーヒーの収穫体験などを提供し、沖縄の新たな魅力を発信していくことも沖縄SVのビジョンとしています。

インタビュアー：社会貢献としてアカデミー事業への取り組みについて教えてください。

高原：ジュニアチームからトップチームまで一貫した指導を行い、選手自身の個性や才能と向かい合うことでサッカー選手としての資質を伸ばしていくというのが基本方針です。地元・沖縄でサッカーに取り組める環境をつくっています。
私自身が経験してきたことを子どもたちにも伝えたい。そして、子どもたちがサッカーに中途半端に関わるのではなく、一人の人間としても未来に希望が持てるように導きたい。最終的には一人ひとりの希望に寄り添いながら、大学まで進路をつなげられるようなアカデミーにしていきたいですね。



沖縄SV、さらなる飛躍と持続可能な未来に向けて。

インタビュアー：高原さんは底力のあるクラブづくりを目指し、「10年単位」というスパンで動いていると伺いました。それはつまり今やっとクラブとして、チームとして次のステージへと挑戦できる立場になったということでしょうか。

高原：Jリーグ昇格への道のりは決して容易ではないということです。しかし、当たり前ですが、その容易ではない目標を達成するためには「どうすればできるようになるか」を常に考えています。例えば、Jリーグ昇格のためには、チームとして試合に勝ち続ける力と、経営規模の拡大、さらには集客が不可欠です。JFLで力を蓄え、Jリーグへと挑戦する。それが今のクラブに課せられた課題であり目標です。
その先、Jリーグに昇格することができれば、クラブの影響力や発信力は高まって、コーヒープロジェクトを含む様々な地域貢献活動もより深みを増していくでしょう。
この10年間は、沖縄SVにとって、まさに「下地作り」でした。そして、次の10年は沖縄SVの活動は新たなフェーズへと突入し、沖縄の地でサッカーと地域創生が融合した「唯一無二のクラブ」として、さらなる飛躍を遂げられる。沖縄SVの挑戦は、まだ始まったばかりです。

HISTORY

OKINAWA Sport-Verein

創造 Creation

2016

前年12月のクラブ創設をうけて沖縄と埼玉でセレクション。選手も十分にそろわずGK経験のあるトレーナーが選手も兼任。7月にユニフォーム（胸）スポンサーに（株）シーエー・アドバンスが決定。県社会人3部リーグ（北）の初戦（FCクボタ）は16-0、リーグ戦全9試合で123得点、1失点。全国社会人選手権に初出場したが1回戦でアミティエSC京都に1-3で敗れる。アカデミーは全日本少年大会県優勝の赤道クラブの卒業生らが加入してジュニアユース（U-15）がスタート。



【戦績】 沖縄県社会人3部リーグ（北） 9勝（全勝）優勝

【スタッフ】 監督・高原直泰、コーチ・森勇介、トレーナー・伊禮修太、主務・高田浩幸

【所属選手】 新里ジュリアン、鮫島大樹、伊禮修太、上條寛太、矢野悠希、伊波周一、祖堅拓耶、池端陽介、石川和磨、森勇介、西紀寛、黒木晃賢、松本圭介、飯尾一慶、富田大智、大兼久令、木下伶耶、佐藤元紀、高原直泰、中田剛尊、仲間和史、伊波絢

2017



県協会推薦により飛び級で1部リーグに昇格。総得点で首位、総失点もわずか4であったが、沖縄国際大に1敗したことで2位。ただし、同大が九州各県リーグ決勝大会への出場を辞退したことから出場権を獲得、佐賀川副クラブを3-1で下して優勝、九州リーグ昇格を決めた。2度目の全国社会人選手権はまたも1回戦（鈴鹿アンリミテッド）で敗退。天皇杯県予選に始めて挑み、準決勝（海邦銀行SC）でPK戦の末に敗れる。ジュニアユースは県サッカー祭り（中頭地区）で初優勝。飯尾が同季限りで引退。

【戦績】 沖縄県社会人1部リーグ 8勝1敗 2位

【スタッフ】 監督・高原直泰、コーチ・森勇介、トレーナー・伊禮修太

【所属選手】 山口遥、有馬巧、新里ジュリアン、上條寛太、矢野悠希、池端陽介、石川和磨、深谷颯太、森勇介、河野勇太、上薗嘉輝、祖堅拓耶、伊波絢、木下伶耶、藤井智明、松本圭介、飯尾一慶、藤城奨平、大河内流星、佐藤元紀、高原直泰、中田剛尊、牧野悟、小畑賄人

2018

九州リーグ初年。鳥取（J3）から前田、琉球（J3）の山内の他、目体大の秋本、九州産業大の関、出水中央高の岸本らも加入し厚みが増す。第1節で九州三菱自動車に5-1で勝利すると開幕7連勝。だが、総得点74で圧倒しながら2敗が響いて優勝争いは最終節までもつれ、勝点差1でJ.FC MIYAZAKIが優勝。前田はリーグアシスト王に。全国社会人選手権は2回戦（いわきFC）まで進むがPK負けし、全国地域サッカーチャンピオンズリーグ（全国地域CL）への道が消えシーズン終了。天皇杯県予選は初の決勝進出も琉球に1-4で敗退。森（U-15監督兼任）と池端が退団。ジュニアユースは県サッカー祭り（中頭地区）2連覇、FW瑞慶山一真は浦和ユース加入へ。同季からユニフォームはXF（エグゼフ）に。知花花織や読谷山花織とのコラボシャツも。



【戦績】 九州リーグ 16勝2敗 2位

【スタッフ】 監督・高原直泰、コーチ・森勇介、トレーナー・砂辺亮馬、玉城寿乃、米田圭佑

【所属選手】 山口遥、有馬巧、碓井健平、矢野悠希、上條寛太、池端陽介、岡根直哉、石川和磨、安藝正俊、森勇介、深谷颯太、高田優作、河野勇太、原隆生、岸本天、関恭範、松本圭介、秋本和希、大河内流星、藤井智明、木下伶耶、藤城奨平、小畑賄人、佐藤元紀、高原直泰、前田俊介、中田剛尊、牧野悟、山内達朗

蓄積 Accumulation

2019

九州リーグ（全18試合）は開幕から16連勝目で初優勝が確定、全国地域CLへの出場権を初めて獲得した。リーグ得点王は山内、アシスト王に関、同2位に西澤。全国地域CL1次ラウンド初戦はFC徳島（四国）に2-1で勝つも2戦目の福井ユナイテッドFC（北信節）に1-6で大敗、3戦目のFC刈谷（東海）を1-0で下したが得失点差で決勝ラウンド進出ならず。天皇杯も県予選決勝で名桜大を1-0で破り初の本選出場。1回戦は松山大に2-0としたが、2回戦のサンフレッチェ広島（J1）は0-4で敗退。ユース（U-18）がスタート、初の公式試合（普天間高校2nd）は1-6のほろ苦いデビュー。U-15は県サッカー祭り（中頭地区）3連覇。



【戦績】 九州リーグ 17勝1敗 優勝

【スタッフ】 監督・高原直泰、トレーナー・砂辺亮馬、玉城寿乃、主務・森島くるみ

【所属選手】 碓井健平、矢野大樹、矢野悠希、岡根直哉、石川和磨、原隆生、安藝正俊、深谷颯太、高田優作、中澤峻哉、豊里浩希、山中隆二郎、三羽悠矢、高柳昌賢、関恭範、西澤代志也、秋本和希、高柳一誠、北野智貴、高橋将太、山内達朗、高原直泰、前田俊介、中田剛尊、牧野悟、宮阪淳也、アンドリュー・F・ジョナソン

2020



年明けから新型コロナウイルスの流行に振り回された。1月に山本浩正氏を監督として迎えて準備を進めたが、九州リーグの開幕は延期となり、チーム活動も4月初めから約1か月半の活動休止に。6月末に開幕したリーグ戦は第1節（FC中津）を5-0で快勝し4連勝した段階でコロナ禍でリーグ戦の中止が決まり、前季優勝の沖縄SVが連盟推薦で全国地域CLへ。同じく天皇杯県予選も4強が決まった段階で準決勝と決勝を中止とし、沖縄SVを他の3チームの了承を得て県代表に選出した。全国地域CLは初戦（SRC広島）を3-1、2戦目（ブリオベッカ浦安）が2-2、3戦目（FC刈谷）は0-1で敗れて予選ラウンドで敗退。天皇杯も1回戦（鹿屋体育大）に0-1で敗れ、パッとしないままシーズンを終えた。
チーム創設時からいた石川、矢野悠が同季で現役を引退。前田、豊里、原も現役引退し、8人が退団した。

【戦績】 九州リーグ コロナ禍で中止

【スタッフ】 監督・山本浩正、コーチ・高原直泰、トレーナー・砂辺亮馬、玉城寿乃、マネージャー・森島くるみ

【所属選手】 黎本杰、寺沢優太、矢野大樹、比嘉和樹、矢野悠希、岡根直哉、石川和磨、原隆生、安藝正俊、杉山颯汰、唐沢真三郎、中澤峻哉、豊里浩希、三羽悠矢、高柳昌賢、関恭範、西澤代志也、秋本和希、山中隆二郎、高柳一誠、北野智貴、吉田悠人、森園貴仁、山内達朗、高原直泰、前田俊介、赤木直人、宮阪淳也、内山弦太、岡本奈也

2021

新たな顔ぶれがそろい翌年のJFL昇格決定チームの土台となった。選手30名のうち11名が新加入し、ユース（U-18）所属の平も2種登録、前季で現役引退の前田がコーチに就任した。コロナ禍が続き、第7節から前期最終節までは「全試合無観客試合」。開幕8連勝首位で迎えた第11節（ヴェロスクロノス都農）は90分で決着がつかずPK戦4-5で初黒星。第14節（九州三菱自動車）もPK戦をしのいだが2位となり、7月に高原が監督兼任、山本氏はGKコーチに体制替え。2位で迎えた最終節（都農）は後半41分に赤木の同点弾、アディショナルタイムに東海林のヘッドで逆転優勝で連覇。3度目の挑戦の全国地域CL一次ラウンドは3戦を1勝2分で黒星なしながら勝点が足りず決勝ラウンドへの進出はまたも跳ね返された。天皇杯は初戦（福岡大）を延長で破り、2回戦（V・長崎、J2）に0-2で敗退。同季で西澤、赤木、東海林が引退。



【戦績】 九州リーグ 16勝 PK1勝 PK1負 優勝

【スタッフ】 監督・山本浩正、高原直泰、コーチ・前田俊介、浅野翔太、トレーナー・砂辺亮馬、玉城寿乃、マネージャー・森島くるみ

【所属選手】 黎本杰、花田力、村田怜穏、井坂健太、比嘉和樹、伊藤研太、中澤峻哉、岡根直哉、藤澤典隆、安藝正俊、杉山颯汰、鵜飼亮多、関恭範、西澤代志也、秋本和希、藤池翼、高柳一誠、吉田悠人、森園貴仁、荒井秀賀、高原直泰、赤木直人、平真桜、和田健太郎、大城佑斗、北野智貴、内山弦太、岡本奈也、東海林佑飛


2016


2019


2021


2023


2017


Go to J League!
OKINAWA
OSV
Sport-Verein
10th ANNIVERSARY
10th ANNIVERSARY


2024


2018


2020


2022


2025

HISTORY

着実 Steady

2022

即戦力ぞろいでJFL昇格を決めた。群馬(J2)から一木、琉球(J2)を退団の儀保、鳥栖(J1)の安在、富山(J3)の戸高ら12人が新加入。とくに山田、一木らFW陣の活躍と大城、安在らサイドの躍動は注目を集め、開幕18連勝で2試合を残して優勝が確定。課題の守備力も高まり総得点75、総失点5。天皇杯も県決勝(海邦銀行SC)で辛勝だったが、1回戦(J3今治)は先制点を奪われたが一気に巻き返して4-1の逆転勝ちでJチームに公式戦で初勝利、2回戦(J1福岡)は0-3で敗戦。4度目の挑戦の全国地域CLは1次ラウンドの初戦(アルティスタ浅間)を6-0で快勝、2戦目(コバルトーレ女川)はドロー、3戦目(ヴェロスクロノス都農)は一木が先制点を奪うと後半に山田の2得点で3-0で勝ち初の決勝ラウンドに進出。決勝Rの1戦目(ブリオベッカ浦安)は両者無得点、2戦目(栃木シティ)も0-0で分け、3戦目(FC刈谷)で4-0で2位となりJFL昇格が決まった。関、戸高、村田、森園、起が引退。前田、高柳がコーチ退任。この年、Jリーグ「百年構想クラブ」に認定。



【戦績】 九州リーグ　19勝1分　優勝

【スタッフ】 監督・高原直泰、コーチ・前田俊介、高柳一誠、浅野翔太、トレーナー・砂辺亮馬、玉城寿乃、村上直人

【所属選手】 花田力、村田怜穏、井坂健太、井西海斗、比嘉和樹、起海斗、岡根直哉、鯉沼晃、安藤正俊、吉田武史、松田麗矢、安在和樹、水越陽也、森園貴仁、中林一樹、大城佑斗、関恭範、秋本和希、高橋康平、藤池翼、高柳一誠、荒井秀賀、戸高弘貴、儀保幸英、高原直泰、山田雄太、一木立一

2023



JFL初年は新舞台に慣れるのに精一杯の年だった。JFL初戦はアウェイで古豪・Honda FCと対戦、先制こそしたが3得点を許し黒星スタート。初勝利は第4節(青森)で新加入の小田島の1点を守り切った。だが、第12節(V三重)を落としてからは最下位、夏季中断明けにやや盛り返したが、最終節で最下位が確定した。12月のJFL地域入替戦(VONDS市原FC)も安在が先制点を奪った直後に追いつかれ、延長前半の伊集院の追加点で逃げ切り残留を決めた。高原は第14節(鈴鹿)のJFL初ゴールで国内全カテゴリーで得点をマーク、9月には同季限りで現役を引退し来季から経営に専念すると発表。岡根、鯉沼が引退。

【戦績】 JFL　7勝5分16敗　15位

【スタッフ】 監督・高原直泰、コーチ・浅野翔太、西河翔吾、浅野翔吾、トレーナー・砂辺亮馬、玉城寿乃、村上直人

【所属選手】 花田力、井西海斗、名良橋拓真、白岡ティモシイ、伊佐颯太、水越陽也、小田島怜、岡根直哉、鯉沼晃、安藤正俊、松田麗矢、米澤哲哉、安在和樹、松下大祐、西原広太、大城佑斗、秋本和希、高橋康平、佐田正舟、飯島翼、冨久田和真、樋口堅、荒井秀賀、儀保幸英、高原直泰、山田雄太、一木立一、伊集院雷、左部開斗

2024

清水(J2)のユースなどで指導してきた小野木玲氏を監督に迎えた。選手も半数の16名が新加入。開幕戦(新宿)を4-0で勝利すると、ホーム開幕戦(浦安)では我那覇、有田の新加入組の連携で白星。得点力で期待の青戸も徐々に本領を発揮しはじめ、途中加入の川中とのコンビで夏以降は量産。前季はリーグワーストだった総得点18が今季は52に飛躍し、青戸も得点王を獲得した。ただ、好不調の波も激しく総失点44を献上、終盤は逆転負けも続いた。得点力は天皇杯でも発揮、県予選準決勝(F.C.那覇)に7-0、決勝では終了間際に青戸が頭で押し込み劇的勝利、2年ぶり五度目の本選だったが初戦(福山シティFC)で敗れた。青戸が移籍、秋本、高橋、安藤らが退団、儀保が同季で引退した。8月に企業経営者らを中心に後援会(高倉幸一会長)が発足。アカデミーダイレクターが高田浩幸から高柳一誠に。



【戦績】 JFL　11勝8分11敗　9位

【スタッフ】 監督・小野木玲、コーチ・浅野翔太、寺岡博輝、トレーナー・砂辺亮馬、知念由磨

【所属選手】 花田力、永谷陵之佑、秋山大起、志賀一允、水越陽也、藤崎将汰、長井響、落合毅人、安藤正俊、安在和樹、松下大祐、山田涼太、岩野寛太、大城佑斗、秋本和希、高橋康平、有田朱里、冨久田和真、池高暢希、下口竜空、原田環、樋口堅、荒井秀賀、儀保幸英、我那覇和樹、伊集院雷、片山雄斗、青戸翔、左部開斗、小田垣旋、川中健太

貢献 Contribution

伝統工芸

沖縄SVは、スポーツチームとして首里織と琉球びんがた、2つの伝統的工芸品を、移動着用のポロシャツに活用。スポーツウェアと伝統的工芸品の融合はハードルが高かったものの、首里織は丁寧に強度を高めて織ること、琉球びんがたは職人が描いた柄を高精細なスキャン画像として取り組みプリントにするなど、従来にはない発想で沖縄の伝統工芸の可能性を広げました。




農業関連

荒れ果てた耕作放棄地をチーム総出で開墾。バナナを植えたり、マンゴーを育てたり。そして今では、コーヒーを一から育てる「沖縄コーヒープロジェクト」を本格的にスタート。その活動は多くのメディア、スポーツ関係者から新たな「農業×スポーツ」のビジネスモデルとして注目されています。沖縄における新たな地域資源として、環境保全と地域経済を盛り上げる活動を続けています。




環境美化

美しい沖縄を守っていくことも沖縄SVの重要な使命です。うるま市や豊見城の公園や海岸、沿道沿いの清掃を行っています。チームの選手をはじめ、スタッフ、さらには地域住民のみなさんにもお手伝いいただきながら、豊かな沖縄の自然環境を守っています。また、沖縄の未来を生きるアカデミー生にも積極的に参加するようプレー以外の成長も支えていきます。





国際交流

世界トップクラスのアスリートを輩出してきたアスリート養成所「IMGアカデミー」との共同プロジェクト「IMG × OSV Soccer Clinic」を実施。IMGアカデミーのコーチングスタッフによる世界トップレベルのサッカーを沖縄の子どもたちに体験してもらいました。また、その中から一人、本場アメリカのフロリダにあるIMGアカデミーに招待。世界を肌で感じてもらいました。





誘致活動

沖縄をサッカーで盛り上げたい。その活動のひとつとして、JリーグやWリーグのチームを中心に、沖縄へのキャンプ誘致活動を積極的に行っています。また、チームの誘致ばかりではなく、それぞれのサポーターにも沖縄キャンプの魅力を伝えるイベントを実施。さまざまなチームの試合に、沖縄キャンプの魅力を伝えるトークショーやイベントを実施しています。





OSV LIMITED WEAR





デザイン画はイメージであり、
実際の商品とは一部異なる
場合があります。

10th ANNIVERSARY LIMITED UNIFORM

沖縄SV10周年限定オーセンティックユニフォーム
沖縄SVの象徴的柄である格子を前面にデザイン。
10周年を象徴する「2016」「2025」の文字、沖縄の地図シルエット、
10周年マーク、波の模様、「克己」、伝統柄などを盛り込みました。

●価格：**16,500円（税込）**
●受注生産：ご注文から
営業日4週間程度でお届け予定

ユニフォーム：12月25日 販売開始予定

https://teamorder.thexf.net/items/844

10th ANNIVERSARY

10th Anniversary



デザイン画はイメージであり、
実際の商品とは一部異なる
場合があります。

10th ANNIVERSARY LIMITED

沖縄SV10周年記念Tシャツ
沖縄SVの象徴的柄を落とし込んだデザイン。
普段着としても沖縄SVを感じられるアイテムです。

●価格：**6,500円（税込）**
●受注生産：ご注文から営業日4週間程度でお届け予定

記念Tシャツ：11月16日 販売開始予定

https://teamorder.thexf.net/items/845

XF PERFORMANCE WEAR



休む力を着れば、本気の力が目を覚ます。

**着るだけで疲労の回復を促すXFリカバリーウェア。
自律神経を整えることで、アスリートを疲労から守り、
休む力で、運動時のパフォーマンスを最大化します。**

XFリカバリーウェアは、リカバリーブランド「HURON」の技術を活用して、オリジナルウェアを提供しています。健康細胞の振動と同じ波長の超微細振動をHURON TECHNOLOGYで実現。超微細振動が身体の深部へ伝わり、自律神経のコンディションをサポートします。血流の流れが良くなり、疲労物質や老廃物の排出を促進。冷えやむくみの改善を促します。

リカバリーウェアの詳細情報はこちら： https://teamorder.thexf.net/lp/xf_recovery



睡眠の質は、副交感神経の働きと深く関わっています。交感神経が優位のままだと眠りが浅くなり、疲労が蓄積しやすくなります。XFリカバリーウェアは、心地よく「休息モード」へと切り替えることで、深い眠りへと導きます。



XFリカバリーウェアは、血流を促進し、心身をリラックス状態へと導きます。1日の疲れを整え、翌日のコンディションに差を生む「整える時間」をつくります。着た瞬間から、自律神経のバランスをサポートし、回復を後押しします。



夏でも油断できない「冷え」は、疲れや不調の原因に。XFリカバリーウェアは、体温バランスを整えながら、快適なリカバリー環境をつくり、健やかな毎日を支えます。

テクノロジーで、質の高い「回復時間」へと導き、明日のプレーを支える力になります。

ATHLETE VOICE



沖縄SV　荒井 秀賀 選手

**見た目スタイリッシュで、
機能は本格派。これはズルい（笑）**

週末は遠征、平日はハードな練習。回復の質は勝敗を左右します。締め付け感がないのに、着ていると身体がじんわり整うような感覚があって、自然と眠りも深くなりました。特に飛行機移動中や練習後、自宅で着用すると身体の軽さがまるで違います。日々の回復の重要性を実感しています。



沖縄SV　永谷 陵之佑 選手

**“着ているだけなのに効いてる”
—だから、毎日着続けられるんです。**

GKなので、毎日のコンディショニングがミスを防ぐカギです。リカバリー機能がありつつ、着心地が非常にスマート。締めつけがなく、移動中もリラックスできます。練習後や就寝前に着ると、身体の緊張がほぐれて、翌日の疲労感が大幅に軽減されるのを実感しています。“静かな武器”ですね。



沖縄SV　秋山 大起 選手

**着用シーンを配慮された設計と、
科学的なアプローチが気に入っています。**

練習のあとにそのまま着て家で過ごしたり、遠征の飛行機移動中にもずっと着てます。
疲労が溜まりにくくなったおかげで、試合でのパフォーマンスが安定してきました。
着て寝ると次の日のコンディションが明らかに良いから、もう手放せないです！